

第5期 第1回さいたま市外国人市民委員会 会議録

1 開催日時および場所

- (1) 日時：令和4年8月1日（月） 午後6時30分～午後8時30分
- (2) 場所：浦和コミュニティセンター 第13集会室

2 出席委員氏名

委員長：西川 ナンシ

委員：頼 沃徳楽、王 蕾、羅 昊、ノルル シャズミラ、金 京垠、  
ディプティ アナンダ ムルティ、山下 美賢

3 議題

- (1) 外国人市民委員会について
- (2) 過去のさいたま市外国人市民委員会提言内容について
- (3) 本市の外国人の状況について
- (4) さいたま市の地域日本語教育推進について
- (5) 意見交換

4 会議の公開

公開 傍聴者はなし

5 会議資料

- ・次第
- ・委員名簿
- ・外国人市民委員会について
- ・第1期～第4期さいたま市外国人市民委員会提言内容
- ・本市の外国人の状況について
- ・さいたま市の地域日本語教育推進について

6 内容

○委員長選出  
本委員会の委員長として、西川 ナンシ氏が選出されました。

- (1) 外国人市民委員会について  
《事務局説明》

事務局より、本委員会の概要について説明しました。  
今後年3回、2年間で任期として活動いただく予定です。

(2) 過去のさいたま市外国人市民委員会提言内容について

《事務局説明》

事務局より、過去のさいたま市外国人市民委員会提言内容について説明しました。

(3) 本市の外国人の状況について

《事務局説明》

事務局より、本市の外国人の状況について説明しました。

(4) さいたま市の地域日本語教育推進について

《事務局説明》

事務局より、さいたま市の地域日本語教育推進について説明しました。

(5) 意見交換

[主な意見]

＜日本語の勉強、生活に必要な情報の収集方法について＞

- ・日本語の勉強は、地域の日本語ボランティア教室で9年間、今も通って続けている。それが一番役に立ち、他の日本に来たばかりの外国人にもボランティア教室のことを教えている。
- ・日本には国費留学生として来たので、母国で2年間くらい日本語を集中的に勉強して、来日時にはある程度日本語ができて、市が行っている日本語教室も通わなかった。しかし、当時を振り返ってみると、市の事業などの情報が入手できなくて困ったことはあった。市役所で住民登録をする際に、市がオリエンテーションをすれば、地域のことが分かってよいと思う。
- ・市はすでにビッグデータとして手元に持っているデータがあるので、これを活用してIT化を図った方がよいのではないかと。駅の周りに市からのお知らせが掲示してあるのは見たが、自分はあまりそこには行かないので見る機会がない。市からのお知らせを意識したのは、新型コロナウイルス感染拡大によりワクチンのお知らせがLINEで届くようになったときだった。外国人が転入したときに、オリエンテーションや、ITのツールを通じて、例えば住民票がコンビニでとれるというようなことも伝えられる仕組みづくりができれば、時間の削減ができるのではないかと。
- ・自分の場合は日本語ができたので、自分で情報を調べることができたが、そ

うでない方はどういう風に情報を得たらよいか分からないと思う。さいたま市は若い方が多いので、QRコードで情報を周知するとか、駅など人が集まる場所に掲示してあると良いと思った。

- 私が日本語を勉強したのは、生活のためというより受験が目的だったが、大学が実施している日本語教室に通ったこともある。大学の中だったので同年代の友達ができるかと思っていたのだが、思ったより年齢層が高く結局行かなくなってしまった。日本語教室に学習者として参加する方の年代によって、それが若い方だったらどういうことに興味を持っているかをリサーチして、いろんな年代の方が集まれるように工夫をすると良いと思った。私の場合は日本の文化を学ぶために、よくラジオを聞いていた。
- 私は日本のアニメを見て日本語を勉強していた。アニメの中で分からない言葉があると、辞書をひいて調べていた。友達を作ることも良いと思う。新型コロナの拡大前は、アプリで友達を作って会いに行き、日本語を練習していた。生活のことで困ったときには、県の外国人サポートセンターを利用している。外国人向けの情報は、駅や大型の商業施設にあったら良い。また、自治会に依頼するのも良いと思う。
- 私は日本に来たときはあまり日本語ができなかった。最初は大学や地域の活動に参加して交流するうちに分かるようになった。イベントに参加してほしいという話を直接してもらったら、外国人は嬉しくて参加すると思う。そういう場に参加すれば、交流もできるし、情報をもろうこともできるのではないかな。

#### <やさしい日本語について>

- 私自身はもう日本語について困っていることはないが、私の仕事上の経験では、言語が違う外国人同士が集まったときは、日本語での依頼をそのままメールで転送するとその内容に対して質問が殺到してしまい、なかなか本題の仕事の話が進まないということがあった。そんなときにやさしい日本語で書いて送ると、その質問は明らかに減って、仕事の内容に集中できた。実は日本語が分からないけど、言えないという外国人はたくさんいるのではないかな。行政がやさしい日本語で書いているものは、役に立っていると思う。
- フリガナを振って、短く書いてあるとやさしい日本語に見えるけれど、実はその内容が熟語で、日本語が分からない人には全くやさしくなかったりする。例えば「必ずしも全員には支給されません。」などと、短いけれど、全員にあげるのかあげないのか、実際何をしたら良いのかよく分からない文章になっている。小学校の低学年くらいの子が理解できるレベルの文章にするとか、文章にできなければ絵をつけるとかの工夫で、色々な人が助か

と思う。

- 私は中国語が母語なので、漢字を追っていけば7割くらい理解ができたが、そうじゃない外国人にとっては、カタカナもひらがなもあって、日本語は難しい。まず日本語をある程度マスターしないとやさしい日本語の「やさしさ」を感じないと思う。それだったらそもそも最初から絵にした方がよい。また、外国語の訳を最初を書いておいて、最後に日本語の注釈をつけるなど、外国語の視点に立ってやさしい日本語を作る方がよいと思った。
- 私の国の言語では漢字がない。先ほど初めてやさしい日本語の文章を見たが、日本語の基礎がある人には分かりやすいと思う。本当に何も分からない人には正直なところ、あまり役に立たないかもしれないと思った。
- 文字だけだったら日本語を理解するのは難しいので、表など文字じゃない方法でも書いてほしいとリクエストしている。アプリで読み込んで翻訳してください、というような注釈とQRコードがあれば良いかもしれない。

#### <防災について>

- 防災アプリについて、北区役所でポスターを見て知った。友達には伝えたが、みんなに伝えるのは難しいと感じる。市報に出ていれば見るかもしれない。
- 単純な発想かもしれないが、例えばアプリをダウンロードするとヌウのスタンプが無料でもらえるなどのやり方も、今風で良いかもしれない。
- 自分は救命バッグを購入して持っている。日本は温泉大国でもあるが、同時に災害大国でもある。そういう事実を市が発信して、外国人の災害に対する意識を高めてもらう必要がある。市がある程度の数の救命バッグを購入し、割引をして外国人に販売できれば良いのではないか。災害が起きた後に負傷者を救助するよりも、事前に自分で備えようという呼びかけが必要なものと思う。
- 私は防災関係の情報は日本に住んでいる韓国人の、インターネット上のコミュニティから得ている。そこではスーパーの割引情報から地震の情報まで秒単位であがってきており、テレビやスマホのニュースより情報が早い。日本人から情報を得るより、外国人同士のつながりで共有されることが多いのではないかと。例えば市報だけではなく、日本語教室のホームページにも載せるとか、情報は1か所に集中して載せるより、分散して載せた方が情報を得られる人は多くなると思う。日本語教室のためだけのホームページになってしまうと、その目的を持った人しかアクセスしなくなってしまう。色々な情報が載っていれば、アクセスもよくするようになり、その情報を外国人同士でシェアするようになるかもしれない。

- WEBのプロバイダに広告料金を払って、検索結果一覧の上の方に表示してもらうという方法もあるので検討してみると良い。

#### まとめ

- 次回以降も引き続き、どういふことを提言として取り上げたいか、委員の皆さんにご意見をいただくことになりました。

以上